

平成28年度  
盛岡情報ビジネス専門学校  
自己点検・評価委員会結果報告書

平成29年3月

平成28年度自己点検・評価結果報告について

ここに学校法人龍澤学館盛岡情報ビジネス専門学校の自己点検・評価結果を公表致します。

平成29年3月

学校法人龍澤学館  
理事長 龍澤 正美

### 1. 学校の教育目標

本校の教育理念である「社会の発展に貢献すべく、現代社会や産業界が求める人材の育成を行うことを目的とする。そのため、資格取得のみならず、社会的常識と教養を備え、明るく健康的で建設的な考え方をもち、社会人として求められる『積極性』『問題発見力』『実践力』を備えた『気づき、挑戦し続ける人材』の育成に努める。」に基づき、学生から社会人への移行がスムーズに行われるよう、様々な学習環境を提供する。

### 2. H28年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ・MCL専門学校グループ各校と連携し、より外部との接点を増やすことで学生に様々な学習の機会を創出する。
- ・多様化する学生のニーズに対して各教員がより丁寧に対応できるよう、事務的業務の効率化を進める。
- ・学生募集において、本校の教育活動やその成果が正しく伝わるような情報発信に努める。

### 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

※適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1

#### (1) 教育理念・目標

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	学校の理念・目的・人材育成像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
2	学校における職業教育の特色は何か	4
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
評価理由と改善策	<p>前年度に課題として挙がっていた「『学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか』が十分とは言えない」ことについて、今年度は、学校HPへの掲載や校内掲示などで周知を図ってきた。また、学校案内や募集要項にも掲載することで、入学前の(進学を検討する)高校生や保護者、また高校教員等にも広く発信するよう努めている。</p> <p>社会経済や業界ニーズは絶えず変化・発展していくものであるため、常に時代の変化に即応できる人材の育成に努めていきたい。</p>	

#### (2) 学校運営

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	3
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3
評価理由と改善策	<p>組織体制は本校単体ならびにグループにおいて明確に整備され、学校運営業務が円滑に進められるよう法人・グループ部門との連携体制が構築されたが、運用面で不慣れなこともあり、その効果を十分に活かできていない。</p> <p>教育活動等に関する情報公開については、シラバスならびにコマシラバスを全学科全授業において整備しているところであり、段階的に公開していけるよう準備を進めている。</p> <p>情報システム化等による業務の効率化については、一部、学系や学科ごとの管理になっている部分もあり、学校全体として効率化が図られているとは言い難い状況である。次年度の課題として取り組んでいく。</p>	

## (3) 教育活動

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
2	教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4
評価理由と改善策	<p>専門分野やキャリア形成に向けた指導等、教員の指導力の向上に向けては積極的に外部研修へ参加し、研修参加後のフィードバック・情報共有も行われている。各種産業界の発展が目覚ましい現代の社会のニーズを踏まえた指導力を備えた教員の確保について、学科によっては要員が十分とは言えず、関連業界からの教員確保も厳しい状況から、マネジメントという点では改善の余地がある。教育課程編成委員会をはじめとした関連企業・団体様との連携を深め、多様な方法を検討しながら、引き続き優秀な人材の確保に努めていく。</p>	

## (4) 学修成果

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	3
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3
評価理由と改善策	<p>就職率については、長年に渡って全国専門学校 averages を上回る実績で推移している。今後も、この高い就職率を維持向上させることはもちろん、学生一人ひとりの将来性を見越した就職活動を丁寧に支援していきたい。</p> <p>退学率については、今年度はここ数年の中で一番高い数字になってしまった。このことは、2の資格取得率の向上や、5の卒業後のキャリア形成への効果把握と学校の教育活動改善への活用などの課題とも関連していると考えられ、学生の自己肯定感の醸成や長期的目標設定ができるような指導を同時に行っていく必要がある。この課題を全教職員で共有し、様々な授業や行事、対外的な活動と連動させながら、学生一人ひとりが自分自身の成長を実感し、将来像をイメージできるような指導を行っていきたい。</p>	

## (5) 学生支援

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4

## (5) 学生支援(つづき)

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4
7	保護者と適切に連携しているか	4
8	卒業生への支援体制はあるか	3
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
評価理由と改善策	<p>近年、定期健康診断において「軽度異常」以上の診断を受ける学生が増加傾向にある。これまでは、学生本人に生活改善の指導をするだけであったが、次年度からは、「正常」以外のすべてのケースについて具体的に保護者にも共有し協力をあおぐよう対応の改善を図っていききたい。</p> <p>卒業生に対する支援については複数年かけて状況把握と支援活動を実施していくこととしており、現段階ではまだ十分とは言えない。次年度以降も同窓会等の卒業生との情報交換・伝達の体制づくりを継続し、卒業後の動向を把握した上での教育活動の改善について役立てられるよう検討を進めていく。</p>	

## (6) 教育環境

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
3	防災に対する体制は整備されているか	3
評価理由と改善策	<p>技術革新が加速度的に進む中、設備の充実は今以上にできる可能性が残っていると考える。今後、教育内容と併せて検討を進めていきたい。</p> <p>海外研修については、希望者の減少から今年度は実施を見送った。今後も、教育的効果を発信しつつ、ニーズに応じた対応を検討しながら進めていきたい。</p> <p>防災に対する体制については、体制や規則、連絡網を整え、毎年避難訓練を実施してきたが、地震災害時の非常時の備蓄などについては課題が残っている。非常時の備蓄等について段階的に検討を進めていきたい。</p>	

## (7) 学生の受入れ募集

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
3	学納金は妥当なものとなっているか	4
評価理由と改善策	<p>情報発信については、「正確かつ分かりやすく」を意識して行ってきた。本校の教育理念や教育活動内容とその目的について共感した上で入学してきてもらえるよう、今後も教育的効果のある情報発信、学生募集活動を心がけていきたい。</p>	

## (8) 財務

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4
評価理由と改善策	<p>法人本部で財務について適正に管理しており、財務情報についてはホームページで公開している。</p>	

## (9) 法令等の遵守

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
4	自己評価結果を公開しているか	4
評価理由と改善策	個人情報の管理については、教員のデータアクセスについて適正に管理している。今後も、定期的に教員への研修を行い、個人情報保護の重要性を十分に理解させる取り組みを行っていく。	

## (10) 社会貢献・地域貢献

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
3	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4
評価理由と改善策	教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献については、3Dプリンター機器等の活用やSECCON等への教室貸し出しなどを行っている他、外部連携授業を展開し、地元企業や個人へのWeb制作協力や業務用アプリケーション開発、地産商品へのラベル・ポスターデザインなど行っている。 学生のボランティア活動の支援も、本校独自またはグループ校と連携して様々な内容で行っており、今年度の最も大規模なものとしては岩手国体ボランティアがあり、ほぼ全学生が参加した。	

## (11) 国際交流

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3
2	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
3	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4
4	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
評価理由と改善策	留学生の受け入れに関する戦略や国内外で評価させる取組みについて、まだ十分とは言えない。今後は、MCLグループの担当部門との連携を図りながら、留学生が安心して学べる環境の提供や国内外で評価されるような取り組みの実施に努めていきたい。	

## 4. H28年度の総合的な自己点検評価結果と今後の目標

H28年度の目標について、一部の課題は残したものの、一定の成果を上げることはできたと考える。社会のニーズや学生の状況が毎年変化する中で、ますます様々な経験の場を提供し、学生の内発的な成長機会を増やしていくべきであると自覚し、学校自体が新しいことにチャレンジし続けていく姿勢を忘れないことを確認することができた。

専門分野スキルの向上、主体性や対応力等の人間力向上などに向けた教育活動をさらに充実させていくためにも、事務的業務の効率化はさらに推し進めていきたい課題である。今後は、新たなシステムの導入などの検討を進めながら、課題解決に取り組んでいきたい。

平成28年度

盛岡情報ビジネス専門学校

学校関係者評価委員会結果報告書

平成 29 年 7 月 7 日

学校法人龍澤学館  
理事長 龍澤 正美

## 平成 28 年度学校関係者評価 報告

学校法人龍澤学館 盛岡情報ビジネス専門学校では、本校規定に基づき、学校関係者評価委員会を 6 月 30 日に実施いたしました。以下に、その内容についてご報告いたします。

今後は、各評価委員からの意見は指導等を真摯に受け止め、より良い教育、より良い学校運営を目指し、教職員一同努力してまいります。

引き続き、一層のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 1. 学校関係者評価委員名簿

氏名	所属	役職
飯岡 一臣	株式会社 I B C ソフトアルファ	システム本部システム二部部長
高橋 学	株式会社北日本銀行	人事部長
内村 豊	有限会社クリップ	代表取締役社長
尾田川 裕二	卒業生	
菊池 那紀	卒業生	
松島 理香子	盛岡情報ビジネス専門学校	副校長
伊藤 政幸	同校	事務局課長
及川 源太	同校	事務局

### 2. 委員会次第

- (1) 開会挨拶
- (2) 学校関係者評価委員会の趣旨・目的等に関する説明
- (3) 平成 28 年度自己点検・評価結果報告ならびに議論
- (4) 閉会

### 3. 議論内容

盛岡情報ビジネス専門学校の教育理念・目標と平成 28 年度に定めた重点目標と計画について副校長より説明した後、「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえて作成した評価項目による自己点検・評価の結果に基づき、各項目の達成状況や取り組み状況、改善策等について、外部専門委員の皆様と議論を行った。



#### (1) 教育理念・目標

前年度に課題として挙げた「学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか」については、学校 HP をはじめ様々な媒体を使って広く発信したり、校内掲示や学生アンケートを実施して教育理念の浸透度を測るなどの取り組みを行っている。また、教職員間での浸透もより深まっていることを説明した。このことについて高く評価いただいた上で、外部専門委員から「原点に返って、『挨拶ができる』や『正しい言葉遣いができる』などのマナー指導も継続して行って欲しい。」とのご意見をいただき、原点回帰の重要性をあらためて確認した。

#### (2) 学校運営

項目 8 の「情報システム化等による業務の効率化が図られているか」については、28 年度の重点項目として挙げていたものの、思うような改善が進まず、今年度への継続課題となっているが、この 3 か月ですでに解決に向けて着手し始めていることから、特に意見は出なかった。

#### (3) 教育活動

項目 11・12 の教員確保に関する内容については、今の教員も十分に力を発揮しているが、今後新たな取り組み等で指導の幅を広げていくことを考えると、現在の人員で十分とは言い切れないところもあることから、外部専門委員の皆様の周りに高い専門分野のスキルを持ち、かつ人材育成に対して熱意をお持ちの方がいた際は、ご紹介いただきたいことをお願いした。

#### (4) 学修成果

項目 1 の「就職率の向上」については、毎年高い水準を維持できていることから、現在目指しているのは「早期に離職しない指導」であることを説明し、大いに共感を得た。

また、項目 3 の「退学率の低減」について 28 年度は、ここ数年の中では最も思わしくない結果になってしまったことから、仮に入学時に目標を持てずに入学してきた学生であっても、できるだけ早めに何かしらの目標を持てるような指導を、より丁寧に行っていきたいことを説明したところ、外部専門委員からは、「就職をすると、自分が考えていたものとは違った、ということはあること。学生時代のうちに社会に対して深堀してみられるような力をつけさせて欲しい。」「学生時代は悩むことも大切。結果はどうあれ、悩むこと自体に価値があるということに気づかせてあげて欲しい。」などのご意見をいただいた。

いただいたご意見を教職員でも共有し、深い思考ができる人材を育成していけるよう指導を工夫していくことを確認した。

項目 4・5 の卒業生に関する内容については、毎年なかなか改善が図られていない点のご指摘を受けた。最近の卒業生についての情報は把握できているものの、30 年という学校の歴史の中で非常に多くの卒業生を輩出しているにも関わらず、卒業後の追跡調査を行わないのは教育効果の検証という側面においても、また、在校生に対するご支援をいただける機会を逸しているという側面からも非常にもったいないことであることから、同窓会のあり方を見直し、できるだけ早い改善を図るべきであることをあらためて確認した。

#### (5) 学生支援

項目 4 の「学生の健康管理を担う組織体制はあるか」について、29 年度からすでに始めている家庭との協力体制の構築について高く評価いただくとともに、「社会人にとって健康管理は大変重要なこと。近年の若者はスマホ利用の長時間化による睡眠不足や、食生活の乱れ（特に一人

暮らしの学生)もよくみられるので、そもそも『健康』を意識した生活ができるように指導をして欲しい。」や「メンタルヘルスの側面からもサポートしてあげて欲しい。」というご意見をいただいた。健康を意識した生活ができるような指導については、すぐにでも取り掛かれるところであるため、早速、教職員で共有し指導に当たっていくことを確認した。

項目8の「卒業生への支援体制はあるか」については、前項の見直しとも関連してくる部分であるが、SNSを活用して卒業生とつながろうとしている姿勢には一定の評価をいただいた。こちらも、更なる強化に努めていくことを確認した。

#### (6) 教育環境

項目2にある「インターンシップ」について、外部専門委員より「近年は、大学等からのインターンシップ受入依頼が減っている。理由は、学生が希望しないからだというが、希望のいかんに関わらずやらせた方が気づきも多いはずだ。企業に学生の力を知ってもらう良い機会にもなるインターンシップは、ぜひ活用して欲しい。」とのご意見をいただいた。あらためてインターンシップの活用について教職員間で確認することとした。

#### (7) 学生の受け入れ募集

項目1・2の学生募集活動については、教育理念や目指す人材育成像、教育的取り組み内容からその成果までをわかりやすく伝えるよう努めていることに共感をいただいたことから、特に意見は出なかった。

#### (8) 財務

既に情報公開されていることや法人本部との連携が図られていることから、特に意見は出なかった。

#### (9) 法令等の遵守

定期的な研修を実施するなど努めていることから、特に意見は出なかった。

#### (10) 社会貢献・地域貢献

活発な地域貢献活動の実施に高い評価をいただき、特に意見は出なかった。

#### (11) 国際交流

項目1の「留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか」については、法人本部の担当部門と連携しながら強化を図っていくことを確認した。

### 4. まとめ

今回の委員会では、特に「(4)学修成果」「(5)学生支援」について、多くの意見が出された。これは、専門学校に期待されていることが大きいことの表れであると捉え、今ある課題(事務的業務の効率化、卒業生との連携強化)の改善に努めながら、地域社会からの期待に応えられる学校として存在し続けられるよう、健全な学校運営と社会ニーズに即応できる人材の輩出、様々な実践経験を積める学習環境の提供という社会的責任を果たしていきたい。